

OB・OGと語る会

毎年学部3年生を対象に授業の一環として行われている恒例の「OB・OGと語る会」が今年は7月9日に開催されました。今回は、田沼健司氏（2011年物質工学科卒、2013年工学府機能発現工学専攻修了、現職：高砂香料工業株式会社研究開発本部）が「"香り"と私 ―有機合成を用いた合成香料開発の仕事を中心に―」という演題で、また齊藤公俊氏（1998年2部物質工学科卒、現職：日産自動車(株)車両生産技術本部）が「学生時代にやって良かったこと、やらなくて後悔したこと」という演題で講演をしていただきました。

講演後は例年通り、お二方を囲んで懇親会が行われ、その席上でも熱心に話し合う姿が見られました。以下にお二方のご講演の内容や感想と学生たちのアンケート結果を掲載させていただきます。

本会の参加者からは大変良い機会を提供いただいたと非常に好評で、今後も継続開催の要望が寄せられました。

(会誌グループ)

国大化学会 OB・OG と語る会に参加して

田沼健司（平成23年物工卒）

4月初旬、恩師である伊藤傑先生から直々に本講演の依頼を受けました。私は学生時代、浅見研究室（現 伊藤研究室）に所属して低分子化合物の合成を行っておりました。大学卒業後は幸運にも志望していた高砂香料工業株式会社という香料メーカーに入社することができ、さらに入社前に最もやりたかった新規香料物質（香料ですから主に低分子化合物です）の合成の仕事をさせていただいております。大学を卒業した友人らの話から推測するに、恐らく大学時代の学業の経験の多くを仕事に活かすことのできている数少ない人間の一人でしょう。そんな私ですから、母校である横浜国大、ひいては国大化学会、そして恩師である伊藤先生の役に少しでも立てればと思い、今回依頼を引き受けさせていただきました。

私が大学に所属していた頃は確かこのような会はなかったと記憶しており、私が学部3年生だったらどんな話を聞いたかったか、を思い出しながら当日話す内容を考えました。以下、当日お話させていただいたことの概略を紹介します。

【講演内容の概略】

○タイトル

企業で研究するということ―有機合成による香りづくりを例に―



○私の生き立ちと話の導入

✓“自己分析”と“行動すること”の重要性

単当直入にいうと、私は学部2年生まであまり主体性のない学生でした。学業については単位を取る要領だけは良かったのですが、純粋に学問というものにそこまで興味を持ってないような覚えがあります。さらにアルバイトもサークル活動も人並み以下しかしていなかった私は、恥ずかしながら大学とは人生のモラトリアム期間なのだと信じて疑わなかった節があります。

そんな折、学部3年生に受講した心理学の講義で偶然、自己分析をする機会に恵まれました。そして、自己分析をした当時の私は、如何に自分が受身に主体性がないかを客観視することができ、そんな自分を変えるべく残りの学生生活を真摯に過ごしてきました。一般的に、自己分析は就職あるいは転職活動

する人のための前準備として行われるケースが多いようですが、早い段階あるいは定期的な自己分析（過去の自分の振り返り）は皆さんの今後の意思決定に必ずプラスに働きます。学生でいられる時間は皆さんが思うよりあっという間です。自分と向き合うことは人によっては辛く、苦しいものかもしれませんが、今この時間を将来になって後悔しないために一度過去の自分と会話してみることをおすすめします。

自己分析し今の自分の姿が自分の理想する姿と合致している人はそのまま自分を信じていけばいいと思います。ですが、もし異なる場合はなりたい自分をイメージして、そうなれるように小さなことから構いませんので、行動に移すことが重要です。行動することによってその結果と共に、①自分の趣味嗜好の把握、②周辺知識、などが副産物として得られます。私のケースを例に挙げると、当時学部2年生に受講した物工基礎演習Bという科目（担当教授の下で半期の間、簡単な実験を行う講義）で、カルボン酸とアルコールの酸による脱水縮合でエステル類を合成する実験がありました。それまで単なる学問でしかなかった有機化学が、“香り”を通して自分の生活に身近な鼻という感覚に直接訴えかけるものであることに、深く感動したのを今でも覚えています。そして、その感動を再び味わうべく、私は現在香りを作る仕事をしているわけです。

是非学生の皆さんには、自己分析と色々な経験をしていただきたいと思います。

○仕事の話

✓会社概要と私の行っている仕事の紹介

弊社はいわゆるB to Bの会社で知らない学生も多くいるかと思い、会社概要と私が行っている仕事内容について詳しく説明させていただきました。紹介した香料物質のいくつかは匂いサンプルを実際にお返しして、皆さんの意見も聞きました。香りは、想像以上に皆さんの生活の近くにあることを少しでも実感していただけたら幸いです。また、研究開発の仕事が皆さんにもイメージできるように、一日の仕事のタイムラインも紹介しました。

✓大学研究と企業研究の違い

私個人の意見としては、大学研究とは真摯に“科学”に向き合うことであり、言い換えれば定説を覆すものや現行の技術を凌ぐものを見つけることだと思います。一方企業研究とは、突き詰めれば“利益追求”のためにあると思います。そのため、大学研究と比べると基礎研究の比率は少なめで、開発業務

が主になることが多いですが、その分自分の仕事の成果を日々の生活の中で直に感じる機会も多いかもしれません。

アカデミックに残るか、会社員になるか迷う学生も多くいるかと思います。可能であれば、双方の諸先輩の意見を聞いて自分の進路を決めるといいと思います。

○皆さんへのメッセージ

✓学ぶことのできる有難さ

よく学生の皆さんから聞く質問に、「学生時代の勉強は社会人になっても活かしているか」というものがあります。結論からいえば、そうであるものもあるし、そうでないものもあります。もちろん、働くことになる業種・職種によりその比率は変動しますし、さらにジョブローテーションなどがあれば都度新しい知識も必要になってきます。したがって、学生の皆さんには、広く浅く様々な知識を得たり、様々な経験をしていただきたいです。広く浅く学ぶことのメリットは、①その知識が必要になった時ゼロから学ぶ必要がない、②自分が何に興味があるのか知るきっかけになる、などが挙げられます。さらに、付け加えると、社会人になると必ずといっていいほど結果（アウトプット）を求められるようになります。すなわち、勉強する＝知識をインプットする、だけではお金はもらえないのです。ですので、学生の皆さんには、今勉強ができること（知識をインプットできること）がどれほど有難いことか、頭の隅にでもとどめていただければと思います。

【講演を終えて】

学生の皆さんからのリアクション（講義中・懇親会を含め）が期待していたより薄かった印象があり、講演内容が皆さんの聞きたいことだったのか心配だった、というのが正直な感想です。ですが、学生の皆さんのアンケートを拝見させていただくと、早い段階での自己分析と行動することの重要性について書かれている方が多く見受けられ、一番伝えたいことがきちんと伝わったようで一安心しました。懇親会では、多くの学生とお酒を飲みながら話すことができ、久しぶりに若返ったような気持ちになりました。その中でも、とある学生が、今後の進路選択で教育分野に進むか、研究員になるか、悩んでいると話してくれました。正直、学部3年生でそこまで明確な将来のビジョンと可能性について考えている人がいるとは思いませんでしたので、横国学生の質の高さを実感し、加えて大変うれしい気持ちに

なりました（当時の私は目先の学科試験やどの研究室に入りたいか、くらいまでしか考えていませんでしたので）。その学生にも言いましたが、皆さんはまだまだ若く可能性も無限大です。進路を一つに決め、仮にその道が自分にマッチしていなかったとしても、またそこから他の道へと歩んでいけばいいのです。案外人生の遠回りをした人の方が懐の大きな人間になれるかもしれません。怖がることなく歩み続けていくことこそが大事だと私は思います。

最後になりますが、今回このような機会を与えてくださった、国大化学会の横山会長、会誌グループリーダーの米山様、伊藤先生を始めとする国大化学会の皆様にお礼申し上げます。横国卒業生の一人として今後とも横浜国大の力になっていきたいと思っておりますので、何か力になれることがありましたら連絡いただければと思います。

長文・乱文にお付き合いいただきましてありがとうございました。



国大化学会 OB・OG と語る会に参加して

齊藤公俊（平成 10 年物工卒）

この度は、OB・OG と語る会に講演参加させて頂き、誠にありがとうございました。

今年に入り、「国大化学会」の理事に就任したのですが、役員会初参加の5月末に打診を頂きました。

候補者が他にいらっしゃるとのことでしたので、お受けするのを保留にしておりました。その後、「やはりお願いしたい」と正式なご依頼を頂き、卒業後20年の節目と感じ、6月中旬にお受けする覚悟を決めました。

当初、現在の業務経歴の話をしようかと思ったのですが、化学系の仕事ではないこと、業務の秘匿性が高いことで、ご紹介を諦めました。代わりに私が学生時代、何に不安に感じ、何を知らなかったのか？を思い出し、それを中心にお話させて頂くことにしました。

当日の題目は「学生時代にやって良かったことやらなくて後悔したこと」で望ませて頂きました。これを題目にした思いは、学生の皆様に、「今の時間を大切にして、色々チャレンジして欲しい」と願った為です。

さて、最初にお話したことは、就職活動の一連の流れです。春に多数面接があること、その際、最も大切なのは自己PRと志望動機であること、これは昔から変わりません。自己PRを考える為には、自己分析が必要ですし、志望動機を考える為には会社分析が必要です。自己分析の為には、元ネタとなる、多様な経験が必要です。何に対して頑張ってきたか、そして何を得たのかも語れる必要があります。

私が学生時代、やって良かったことは、①多様な経験、②体力維持、③専門スキルの学習でした。やらなくて後悔したことは④英語学習でした。また、大学院進学に行くことへのメリット、デメリットを挙げさせて頂きました。メリット：①給与高い、②仕事のチャンスが多い、③理系の採用枠多い、デメリット：①期待度が大きい、②高齢リスク

学生のゴールは就職すること、できれば自分の興味のある会社へ就職することだと思っています。就職は人生のスタートです。将来、一人でも多く、自分の望む会社に就職できることを期待しております。



懇親会にて、質問がありました。

Q 1 学卒の就職先と大学院の就職先は違うのか？

A 1 違うと思う。学卒の就職先は文系の職種も含まれるが、院卒が有利な就職先は、理系の会社に多い。

学卒は、文系の会社の募集が多い為、文系の会社や職種が文系のところに勤めたいなら就職有利かも。

院卒は、理系の会社の募集が多い為、理系の会社に勤めたいなら就職有利かも。

私の考える文系の会社は、銀行、商社、広告代理店、マスコミ、飲食業、サービス業、人事、総務、法務、経理、商品企画等です。

私の考える理系の会社は、モノづくりの製造業や化学系会社の研究職、設計、商品企画、生産技術、システム開発部、等です。

Q 2 年齢が高くなった状態で、大学院に行くとな就職に不利か？

A 2 わからない。20年前は就職氷河期と言われる時代だった為、不利になりそうなマイナス面を全て除く努力をしてきた。今とは時代が違う。

オリンピック終了の2年後、景気が急に落ち込むリスクはある。しかし、世界的に需要のある技術は景気が悪くても必要とされる。

私の代の同期や先輩に、どうしても自動車会社で設計をやりたい為、院浪して大学院に行き、入社した方もいる。やる気しだい。

私の代の化学系有名企業は、優秀な大学院の成績上位3番以内を2~3人採用と、はっきり明言された。

Q3 日産に入る場合、TOEIC 高得点は必須か？

A3 600点位は欲しい様だ。弊社、正社員のある職種の応募条件をみたところ、TOEIC600点以上とはっきり書いてあった。

弊社は海外との取引が多い為、海外から社員が来ることも多く、英語の必要な部署が増えている。

講演について、当初あまり真剣に聞いていない学生が多かったように思っていたのですが、それは間違いで真剣にメモを取っている学生が多かったことに気がきました。

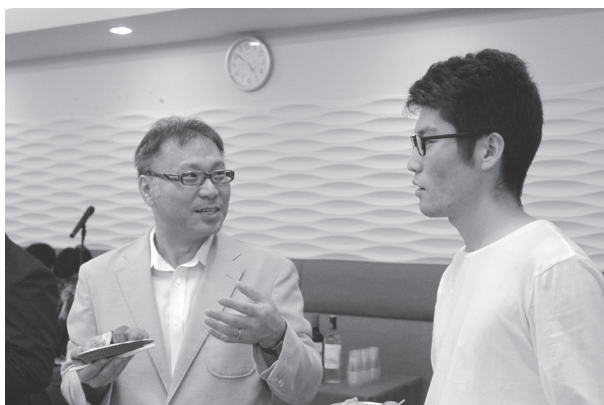
所感として、昔に比べて質の高い学生が増えてい

るのかな？と感じました。また、8割大学院に行く為、就職はまだ先の話かなと思っている学生も多いた様にも感じました。

質やモチベーションの高い学生が増えているのは非常に嬉しく思います。学生の皆様の将来の選択の一助となればと思い、この度お話させて頂きました。日本の未来を担う横浜国大生が、一人でも多く社会で活躍できることを心から期待しております。

最後になりますが、このような機会を与えて頂き、誠にありがとうございました。大変感謝しております。

皆様のご活躍を祈念してあいさつに代えさせていただきます。



「OB・OGと語る会」アンケート結果

今やれることはやらないといけないと思いました。大学生のうちに多くの経験を積むことが重要だと感じました。英語などはやろうと思った。

大学生時代にしておけば良かったと思うことが多いのだなと思いました。自分も消極的な人間であるため、今日言われたことを意識していきたいと思います。研究を会社で行うとき、実際何をしているかを知ることができ良かったと思います。

会社の説明、仕事の内容だけでなく、社会人になってから感じることを等を知ることができた。学生時代にできるだけ多くのことを経験しておくべきであると感じた。勉強はもちろん自分自身のことを知ることが大切だと思った。

企業で研究する際はテーマの方向性がしっかり決まっている。様々な経験を通して自分のやりたいことを見つける。スケジュール化とそれに必要な準備。

香料作りの実際を聞くことができ、進路の一つの候補として位置づけられて良かった。基礎研究を地道に続けることで、あるときにその成果が開花するという話が励みになった。

学生時代は多様な経験を積むのが大事で、それが就職活動や就職後に生きてくると感じた。大学研究と企業研究の違い、大学院進学後のメリットデメリット、英語が大事であることなどが参考になった。

化学といってもいろいろな分野があるとわかって良かった。大学院進学の大切さもわかった。自分はサークルやバイトをやっているが、長期休み中に計画したやりたいことを出来ていないので、今年の夏休みは色々挑戦したいと思った。

学生のうちは、勉強以外にも、サークルやボ

ランティアなどの活動をすることにより幅広い経験を売ることが大事であり、様々な挑戦をすることを意識してみようと思った。色々な授業を浅く広くとるのが良い。社会に出てからどんな知識が必要になるかわからないから。

実際の社会での研究のあり方や、学生時代の今だからこそ出来ることがあるのだなと考えさせられた。学生と社会人の違いやつながりなどがわかって良かった。将来やりたいことがわからない分幅広く勉強するべき。自分の好きなことや、やりたいことは早く見つけられるように頑張りたいと思った。

今やりたいことがはっきり決まっていなかったとしても、色々なことを地検してみようと思った。大学院に進むメリット・デメリットについて参考になった。

企業内での研究がどのようなものか、学生時代にやっておいた方がよいことなど参考になる部分がたくさんあった。特に考慮に関しては、自分の興味のある分野なので、企業内の研究など参考になった。

正直働くということに関してマイナスな考えしか持っていなかったし、大変だからやりたくないものと考えていたけど、仕事のやりがい、楽しさの話を聞いて、プラスイメージももって自己分析に取り組もうかなと思った。受動的な学生生活を送っており、でも何かを変えたいと思っているというのがまさに自分と同じであると思った。

とてもためになった。会社で何をするのか漠然としていたが、話を聞いてなんとなくわかった。有機合成についての将来設計についてとてもためになった。

私も3年になるまでなんとなく来てしまったので、もう少し自分と向き合って、様々な経験を積んでいきたいと感じた。コミュニケー

ションに困らないくらいの英語を身につけて置きたい。

今あまり将来のことを漠然としか考えておらず、もっと自分の事として捉えて向き合っていこうと思いました。自己分析を試みることは参考になりました。

大学から社会に出るまでの流れが良く分かりました。将来企業に勤めたときにどのような仕事をするのかイメージを持つことが出来ました。

あまり田沼さんと私に共通点がなかったが自己分析の重要性は自分にも大切であると思いました。院進学によるメリット・デメリットはとても参考になった。

これからの人生を歩む上で今のうちに色々な経験しておきたいと感じた。まだ将来についてモヤッとした部分があったところが、話を聞いてどのようなステップがあるかが分かった。

自分が今やっている勉強が将来どのように生かされるのか明確にイメージ出来る話を聞くことができとても有意義だった。研究職に就いたらどのような一日を過ごすかの説明は参考になった。

今自分がやっていることはそこまで間違っていない、足りていないものももちろんあると思った。大学院に行った方が可能性が広がると思えた事は参考になった。

自己分析をもっとしなければならなかった。より主体的に行動していきたい。学生の内に多様な経験をしていくことが大事だとわかった。学部授業で学んでいることが、企業研究でどのように活かされているのか、具体的なイメージを得ることができ参考になった。

今まで将来のことについてあまり考えたことがなく、考えなきゃならないと思っていたが具体的な話を聞いて、学生のうちに学生でしかできないような経験をする事、自分の興味が何にあるのかを探ることが大事なんだと感じた。自分がどのような人間でどこが長

所、短所であるのかを考える必要がある。グローバルな社会に向けて英語学習を怠らないようにする。

私は院進学予定なので、学部3年生の時点では就職はまだ先の話とっていたが、早めに自分の興味について知ったり、英語学習をしておきたいと思えた。大学院進学のメリット、デメリットや、学部3年の今のうちにやっておいた方が良いことは聞いてよかった。

自分のことをもっと理解しようと思った。どんなこともチャンスになる可能性があるから、何事も楽しんでやることを学んだ。今の段階で多様な経験しておくことが必要だと思った。

自己分析をした上で、様々なことにチャレンジすることが、とても大切であることが再認識できた。やらなくて後悔したことが1つでも減るように努める。

企業の研究と大学における研究とでは、目的としてることが違うんだなと思いました。また、自己分析の大切さを感じた。大学生のうちに幅広い分野を学ぶことが大事だと思いました。また、自分自身のことをもっと調べるべきだと思いました。

同じ化学系の学科を卒業しても、今日お話しして下さったお二人のように、全く別の職種についていて、将来の選択肢は色々だということを感じた。学生時代の経験は就活はもちろん今後の人生にも生きてくるので、色々な種類の経験をすることが大切であることを伝えたいと感じた。田沼さんが仕事が楽しいと仰っていたことが印象的だったので、自分も将来楽しいと思える仕事につきたいと思った。

非常にためになるお話だった。自分のことをもっと知ることが大事であるということが深い意味があり、最も伝えなかったことであると感じた。将来の見通しについて、今日の方も同じような立場であったときに、どのようなことをすればよいか、教えてもらったことが参考になった。

学部3年になって今やってる勉強が将来の役

に立つか、どの道に進むべきかなど悩んでいたため、このタイミングで話が聞けて良かった。自己分析して自分のことを良く知ることがやりたいことが見えてくる。興味のあること好きなことを選択していきなと思った。

大学生活の中でサークル活動やアルバイトなどが意味のあるものであるのだとわかるようになるのだと思い、自分がしていることは将来の糧になるということがわかりました。自分の興味のあることを見つけるために、大学生活の中で自己分析をしていくこと。自己分析、企業選びなどについてのお話がとても参考になりました。大学院に進学するメリット、デメリットについても参考になりました。

香料会社について良く知らなかったため、香りに4つの部門があるなど新たに知ることが多く、タメになりました。自分自身について改めて分析しようと思った。大学院のメリット、デメリットを知れて、今後の選択の判断材料の1つを得ることができた。

今現在大学で学んでいることは全部が必ずしも将来使う知識とは言えないけれど、その中で自分がより興味を持てる分野を深くしていくいい機会だと思えた。自分が今後どうしたいのか、何に興味があるのか考え、知ることが大切だと思った。今大学3年になって、将来を考える上で、自分が仕事にしたいと思えることを見つけるのが大事だと思った。

特定の分野の中でも開発には様々な部門があり、貢献できる部分は沢山あると感じた。自分自身を理解することでやりたいことが見えてくることがあるので、もっと自身について考えてみるのが大切だと思った。仕事のやりがいに学生時代の悩みなど自分が不安に思っている部分について深く解説されていて、ためになった。

横国卒業の10年年上の先輩が、自分と同じ年の時、どんなことを考えていたかという話を聞いたことで、少し安心をしたとともに、行動を起こすことの重要性を再認識し焦りも覚えた。行動を起こすこと、何事も楽しんで取り組むことが大切だと思った。やらなくて後悔したこととして英語学習を挙げていたこ

とが気になった。数年前と比較し、大学がバックアップをしてくれていると実感はしているが、やはり最終的に大事なことは自分の意識だと思うので、もっと英語に力を入れるべきかと考えた。

院進学、就職について、具体的なイメージが持てた。将来に向けて学生の内にできること、やっておくべきこと、進路の考え方がわかった。院進学のメリットとデメリットが参考になった。

大学で学んでいることが、将来の自分にどのようにかかわってくるのかを考え直すきっかけになった。大学での講義や研究が企業で研究するにあたっての下地になるのでしっかりやるべきだとわかった。大学での研究と企業での研究の違いが分かった。将来を考えるにつき、どのようなことを考えればよいのかわかった。

有機化学に興味があるので、とてもおもしろい内容でした。広く浅く勉強する。将来の働き方について、少し想像することができました。職種を絞らず、先輩方がどのような仕事をしているのか知りたいです。

早く仕事についてみたいと感じた。自己分析をしっかりすること。大学では広く浅く学んでいく。インプットする。企業に就職するとこのような生活になるのかなと想像することができた。

学生の勉強や実験、研究などの知識、経験と社会、企業での研究が、自分が思っていた以上に密接に結び付いていることがわかった。学生時代もっと自ら学んでおけば…という後悔も聞いて、今その場にいる自分は挽回できると思った。お二人とも学生の時に色々な経験をすべきだ!!とおっしゃっていた。今、様々なことにトライできる余裕があるのだから、もっと色々なことがしたい!と思った。また、私は院進を考えているので、就職のことにまだ興味はなかったが、今日少し想像ができた。